

「早期胃癌に対する胃 ESD 根治度 C-2 の高齢者における長期予後の検討」へのご協力をお願い

代表者

所属：津山中央病院 内科 職名：副院長 氏名：竹中 龍太

共同担当者

所属：津山中央病院 内科 職名：主任 氏名：武田 和宏

1. 目的

我が国では胃癌罹患患者数は多く、その半数以上は早期胃癌発見である報告される^{1,2}。術前に深達度が粘膜内と想定される早期胃癌に対し、近年では内視鏡的胃粘膜下層剥離術(Endoscopic submucosal dissection: ESD)が普及し、リンパ節転移リスクのない早期胃癌に対する標準治療となっている³。一方で、我が国では平均寿命が年々延長していることもあり、高齢患者の早期胃癌患者に対し胃 ESD を行う機会が増加している。胃 ESD 後の病理組織学的検査にてリンパ節転移リスクを評価するが、胃 ESD 後にリンパ節転移リスクを有する患者(非治癒切除：内視鏡的根治度 C-2)症例については、基本的には追加手術が推奨される³。しかし、高齢者は様々な背景を有し、追加手術が身体に非常に侵襲的となり得るため、一律に追加手術を推奨できない場合も想定される⁴。胃 ESD 根治度 C-2 の高齢者の長期予後の報告はいくつかあるが^{5,6}、未だ十分ではなく、今回その長期予後について検討を行った。

2. 対象と方法

2002年1月～2019年12月に当院で胃 ESD を施行した2117例の内、根治度 C-2 であった75歳以上患者108例を対象とし、患者背景、病理組織所見、生命予後不良に関するリスク因子(ロジランク検定、Cox 比例ハザードモデルで解析)を検討した。

3. 研究期間

委員会承認後 ～ 2025年9月30日

4. 調査票等

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。あなたの個人情報には削除後匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には最新の注意を払います。

- ・年齢、性別、家族歴、既往歴、嗜好、診察初見など
- ・検査データ、画像データ、手術記録、病理記録など
- ・治療内容、有害事象など

5. 情報の保護

調査により得られたデータを取り扱う際は、被検者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

個人情報は完全に秘匿されておりますのでご安心下さい。もし患者様自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象としませんので下記までご連絡

下さい。

津山中央病院 病院長 林 同輔
連絡先：電話 0868-21-8111（担当：内科 里見 拓也）